【特別講演】

韓国における馬文化の現状と展望

－ 韓国在来馬（チョランマル）の保護活動と韓国馬文化の発展 －

講演者：康　珉秀（済州大学校　馬産業特性化大学　専門人力養成センター）
座長：南保泰雄（帯広畜産大学）

馬に関連した産業は、馬の品種を生産改良することを基本として、飼料や施設建設・整備、馬具、医薬品開発、流通、あるいは食肉などの畜産加工をもたらし、さらには競馬、乗馬など国民の生活の質の向上へつながる一大産業として認識されている。韓国では、2005 年から 2011 年までのわずか６年間で、馬の飼育頭数が２万頭から３万頭へ増加しており、馬産業の需要が飛躍的に増加している。さらに、生産飼養頭数の増加だけではなく、付加価値を加えることや、世界的な情勢、社会的側面に合わせた対応により、さらなる産業の発展が見込まれている。中でも、済州島は、韓国内の馬産業の拠点となっており、韓国競馬の資源となっているサラブレッド生産や、天然記念物に指定されているチョランマルの保存などに積極的に取り組んでいる。また、サラブレッド種と在来のチョランマルを交配させて作出されたハラル馬という独自に改良された小型の軽種馬が競馬で活躍し、人気を集めている。

馬産業育成法が 2011 年に制定され、国をあげた馬産業の推進のために、馬産業総合振興計画として、育成５カ年計画の推進計画が進められている。済州島は、その戦略として、馬産地、観光業、競馬開催に見合う馬産業育成基盤の構築を積極的に進め、馬産業特区指定など、法的、制度的な支援基盤の構築を目指して現在に至っている。

韓国の競馬はここ 20 年間、発展の一途を辿り、サラブレッドの生産頭数も 4～5 倍に増加している。競馬産業におけるインフラ整備や優良種牡馬の導入、セリの活性化などは重要な推進要素となっている。一方、競馬のみの発展では、馬産業の停滞を招く危険性も考えられる。乗馬は馬産業の重要な役割を担うものと認識され、Brand 乗用馬の生産や、競技乗馬への支援、乗馬大会誘致など、国をあげた馬産業推進に挑戦し、国際大会などにおいて確実な成果を収めている。併せて、大学校、高校や研究所が幅広い馬産業を担う人材の育成を側面的に推進している。また、馬肉の生産、流通、販売を計画的に促進していることも特色として挙げられる。さらに、馬の博覧会や馬祝祭の開催を推進し、済州島では馬エキスポが 2013 年より盛況に開催されている。

現在、競馬で利用されているハラル馬は、段階的に、観光資源として乗馬などに利用されるように変更することが計画されている。大きな変革時期にある韓国の馬産業において、国民の生活の質の向上に寄与することを目指し、総合的な産業の発展が掲げられている。また、済州島の馬産業が、大きな変革期にある韓国の馬産業のリーダーとして、中心的役割を担うことが期待されている。